

## 2. 共同研究

### グローバル COE プログラム

#### 「多元分散型統御を目指す新世代法政策学」

(拠点リーダー：田村善之・本学法学研究科教授、  
研究分担者センター・メンバー：吉田広志・高等研センター准教授)

文部科学省は、平成19年度から、グローバル COE プログラム (GCOE) を開始している。GCOE プログラムとは、平成14年度に開始された21世紀COEプログラムを承継するプログラムであって、世界的な教育研究拠点の形成を5年間に渡って重点的に支援することを目的として、学問分野ごとに選抜された教育研究拠点に「研究拠点形成補助金」を交付するという事業である。同プログラムの平成20年度の社会科学分野の募集に対して、北海道大学は、法学研究科法律実務専攻・法学研究科附属高等法政教育研究センター・法学研究科法学政治学専攻・公共政策学連携研究部・経済学研究科現代経済経営専攻・情報法政策学研究センターを受け入れ母体として、「多元分散型統御を目指す新世代法政策学」をテーマとして採択された。

本拠点の多元分散型統御を目指す新世代法政策学は、政策形成過程のガバナンスという視点を取り入れつつ、基本権の衡量論、法と経済学、リスク行政論等の近時の議論を昇華させ、多様な法学方法論を統合的に理解する体系を構築し、もって、拡大する外部性社会に対する動態的な規律の指針を示すという21世紀の課題に応える学問である。この目的の達成のために、研究総括班、総論班、各論班（知財班、競争班、環境班）の3層構造によって理論構築を目指すものである。

平成24年度は、GCOE 最終年度となった。以下で、これまでの活動を総括する。

○ **5年間の成果の集大成としての総括国際シンポジウムの挙** 法概念というメタファーを用いて漸進的に試行錯誤を繰り返すという「muddling through としての新世代法政策学」というコンセプトを研磨するとともに、知的財産、競争法+消費者法、環境法の内外の一線級の研究者を一堂に会する総括シンポジウムを11月に実施し、その成果を年度末発行の新世代法政策学研究最終号に発表することに成功した。

○ **総論研究** GCOE 全体研究会では、対話的違憲審査論、Empirical Legal Studies、批判法学等を中心にプロセス的な方法論である muddling through に関わる研究会を開催、また、法学のプロセス的な淘汰という観点から、民法学の教科書の栄枯盛衰を検証する実証研究に関わる研究会を実施し、総括シンポにおける成果発表に繋げた。また、北大社会科学実験センター(CERSS)の協力を得て、人々の規範意識に関する実証研究を実施した。

○ **各論研究** 知的財産法の分野では、知的財産法と憲法に関する大型のシンポジウム、日中韓3カ国知財シンポジウム、Patents and Innovation に関する国際シンポジウム、東大GCOE プログラム「ものづくり経営研究センターアジア・ハブ」の拠点リーダーを招聘し、イノベーションの現場と知財の関係を探る共同シンポジウム、第二東京弁護士会知的財産権法研究会との共同研究会、その他、内外の研究者、実務家を招聘した各種研究会を挙行了。競争法・消費者法の分野では、競争法の普遍性、流通・取引慣行の変容、流通ネットワーク、法サブリース事件、インサイダー取引、JASRAC 事件、米国 FTC Report 等に関する各種研究会を挙行了。環境法の分野では、環境条約の国内実施に関する二度

にわたる大型のシンポジウム、原子力安全規制、京都議定書と温暖化対策、価格物質規制、海底紛争、生態リスクの法的な管理等に関する各種研究会を挙行了した。

このような企画を遂行した結果、研究会の開催数は、関連する研究会を含め106回、うち国際シンポジウムは8回、海外からの招聘者は55名を数える。

○ **オムニバス講義の展開** 以上の成果を教育に反映させるべく、GCOEの基幹科目として、前年度まで本拠点の特任准教授をつとめ、今年度から他大学に転出した経済学者による法と経済学の講義を昨年度に引き続き開講し、そこに拠点リーダーを始めとする主立った事業推進担当者が参加することで、多元的な教育指導を実現した。

○ **muddling through としての新世代法政策学の完成** 昨年度までの成果で本拠点では、「muddling through としての法政策学」という漸進的な試行錯誤の過程として法学を特徴づけることに成功していたが、その過程に対する政策バイアスの影響をいかに克服するのかということが課題として残っていた。

そこで、今年度は、北大社会科学実験研究センターの研究成果を活用し、人はホモ・エコノミクスとして自己の利益のみを追求するのではなく、平等も重視するという実証研究に着目した。また政治学からは、実際の政策形成過程においては普遍性が装われ、社会的に通用する偽善が用いられる、という指摘を得た。これらの作業により、法概念というメタファーを用いて何を等しく扱うべきかという議論をなしていくことにより、政策形成過程に影響力を行使しようという結論を得た。そのうえで、概念というメタファーが現実の千差万別の現象を感得する仕方に影響する認知バイアスを教えてくれる認知言語学との接合を探った。その結果、概念自体が人工的な構成物である以上、他の概念設定の可能性を絶えず探りつつ、法律論によるバイアスの統御を目指すべきであるところ、政策形成過程に影響を与えることが困難な者に有利な概念設定をベースラインとして、そこから議論による漸進的な正当化を促すことを心がける方策に到達するに至った。

○ **具体的な成果への連結とその発信** このようにして得られた総論的成果を、各種シンポジウム、研究会を通じて研磨するとともに、各論に対する具体的な成果に繋げた。その成果は、主として、『新世代法政策学研究』と『知的財産法政策学研究』という媒体を利用して発信した。今年度は、前者が16号～20号を刊行、計2,009頁、収録論文数延べ75本、後者は38～42号を刊行、計1,831頁・収録論文数延べ48本に上る。

○ **双方向的連環型教育プログラムの遂行** 研究会における報告と雑誌媒体の発表を柱とする『「報告→指導→成果発表」を1つのサイクルとする双方向的連環型教育プログラムを引き続き実施した。本拠点の大学院生・研究生、研究員、助教、特任准教授で構成される「若手コミュニティ」の手になる論文は、今年度内に刊行された『新世代法政策学研究』に2本、同じく『知的財産法政策学研究』に9本(脱稿時在籍者2本を含む)の計11本を数える。

## 【別紙1】シンポジウム一覧

2012/4/7	<p>「著作権侵害に係るプロバイダの責任—国際的比較—」  孫友容（北海道大学大学院法学研究科博士後期課程）  「自動送信装置を用いたサービス業者が送信の主体とされた事例——まねきTV事件上告審判決（最判平成23年1月18日民集65巻1号121頁）」  顧昕（北海道大学大学院法学研究科博士後期課程）  「著作権間接侵害の判断基準—日中比較の視点から—」  前田健（神戸大学准教授）  「プロバイダの著作権侵害責任—著作物の『私的』利用を集積する者の責任」  駒田泰土（上智大学教授）  「ActiveかPassiveか——不安定なセーフハーバーとその先にあるもの」  張睿暎（東京都市大学准教授）  「ISPの責任制限に関する欧州の動向—差止としてのアクセスブロッキングを中心に—」  奥邨弘司（神奈川大学准教授）  「サービス・プロバイダーの著作権侵害責任——DMCAセーフハーバーから学ぶもの」  田村善之（北海道大学教授）  「著作権侵害に係るプロバイダの責任—日本法の現況と課題—」</p>
2012/4/9	<p>“Patents and Innovation”  Yuka Ohno (Associate Professor, Hokkaido University)  “International Harmonization of the Patent-Issuing Rules”  Keith Maskus (Professor, University of Colorado at Boulder)  “Southern Innovation And Reverse Knowledge Spillovers: A Dynamic FDI Model”  Jay Pil Choi (Professor, University of New South Wales)  “Selection Biases in Complementary R&amp;D Projects”  Justus Baron (Mines ParisTech)  “Are Patent Pools Good for Innovation? - Empirical Evidence”</p>
2012/6/22	<p>「イノベーションと組織と制度—ものづくりの現場と知的財産法の交錯—」  藤本隆宏（東京大学ものづくり経営研究センター長、同経済学研究科教授）  「震災後・円高下の地域活性化戦略—現場観察の視点から」  田村善之氏（北海道大学法学研究科教授）  「オープン・イノベーションと特許制度」</p>
2012/7/20	<p>“Changing World, Changing Law: New Movements in IP Law in Asia”  Yahong Li (Associate Professor, University of Hong Kong)  “The Challenges and Possibilities of IP Cooperation in Asia”  野口祐子（弁護士、森・濱田松本法律事務所）  “Discussion regarding copyright amendments in Japan”</p>
2012/7/28-29	<p>“Changing Societies, Changing Intellectual Property Law: Reflections from the East Asian Perspective”  Handong Wu (President, Zhongnan University of Economics and Law)  “The China Copyright Law in Knowledge Revolution and Economic Globalization”  Young-Gil Park (Professor, Dongguk University)  “21st Century Approach Toward the Development of IPR System in the Asia”  Takakuni Yamane (Assistant Professor, Doshisha University)  “Copyright Law and Rawls' Theory of Justice”</p>

	<p>Jianbin Yang (Professor, Heilongjiang University)  “Rethink of Intellectual Property and Intangible Property Right System in The Information Society”</p> <p>Wushuang Huang (Professor, East China University of Politics and Law)  “Rediscussion on Elements of Liability for Copyright and Related Rights Infringements”</p> <p>Kaizhong Hu (Professor, Zhongnan University of Economics and Law)  “The Legal Protection of the Rights of Broadcasting Organizations in the Circumstance of Cyberspace”</p> <p>Branislav Hazucha (Associate Professor, Hokkaido University)  “Karaoke Doctrine and New Types of Streaming Services in Japan”</p> <p>Kyong-Soo Choe (Director General, Korea Copyright Commission)  “Protection of Program-Carrying Signals in Korea's Copyright Act”</p> <p>Ryu Kojima (Associate Professor, Kyushu University)  “Quasi-Fair Use?: The ‘Flexible’ Statutory Interpretation of Existing Copyright Doctrines in Japan”</p> <p>Toshiya Kaneko (Senior Assistant Professor, Meiji University)  “Copyright, Parody and Doujinshi”</p> <p>Ho-Heung Lee (Director General, Korea Copyright Commission)  “Restriction of Economic Rights in Korea’s Copyright Act: on the Progress of Introduction and Contents of General Provisions”</p> <p>Binghe Dong (Professor, Soochow University)  “IPR Issues in the Context of FTA”</p> <p>Deok-Young Park (Professor, Yonsei University)  “The ACTA and International Law”</p> <p>Dae-Hee Lee (Professor, Korea University)  “Free Trade Issues on Copyright”</p> <p>Byung-il Kim (Professor, Hanyang University)  “The Protection of Well-Known Trademark in Korea”</p> <p>Sang-Jeong Lee (Professor, Kyunghee University)  “Design Protection in Korea”</p> <p>Yuye Huang (Professor, Zhongnan University of Economics and Law)  “The Protection of the Inheritance of Intangible Cultural Heritage”</p> <p>Xinming Cao (Professor, Zhongnan University of Economics and Law)  “Study on Ways to Prevent Piracy in China”</p> <p>Masabumi Suzuki (Professor, Nagoya University)  “Current Issues Regarding Injunctive Remedies Against IP Infringements”</p> <p>Nobuhide Otomo (Professor, Kanazawa University)  “A Future of the Doctrine of Equivalentents in Japan”</p> <p>Sun-Jeong Kim (Professor, Dongguk University)  “Commercialization of the University Invention by University Holdings Company”</p> <p>Yoshiyuki Tamura (Professor, Hokkaido University)  “Conceptual Fallacies behind the Idea of an Area Without Protection for Intellectual Works”</p>
2012/8/24	<p>「台湾における社会権保障の現状及び問題点」  許慶雄（淡江大学教授）</p> <p>「日本及び台湾の憲法体制の一検討—社会権保障と解散制度を中心に」  黄舒芃（台湾中央研究院法律學研究所副研究員）</p> <p>「違憲審査における立法形成の空間—社会権を中心に」  周宗憲（勤益科技大学助理教授）</p> <p>「格差社会における国家による貧困者の救助—台湾法の一考察」  岩本一郎（北星学園大学教授）</p> <p>コメント</p>
2012/11/2	<p>「知的財産法と憲法」</p>



第2部 活動報告

	<p>大日方信春（熊本大学法学部教授） 「特許と憲法」</p> <p>木下昌彦（神戸大学法学研究科准教授） 「表現の自由と著作権—プロパティから文化の民主化へのパラダイム転換—」</p> <p>比良友佳理（北海道大学大学院法学研究科博士後期課程） 「デジタル時代における著作権と表現の自由の衝突」</p>
2012/11/24-25	<p>国際シンポジウム “Establishing a New Global Law and Policy for Multi-Agential Governance”</p> <p>Peter Drahos (Australian National University) “Networks, Governance and Globalization”</p> <p>Yoshiyuki Tamura (Hokkaido University) “A New Perspective on Intellectual Property Law and Policy: A Role of Metaphor”</p> <p>Takeshi Fujitani (University of Tokyo) “What (if any) is the Contribution of ‘Multi-Agential Governance’ to the Theories of Law (and Policy)?”</p> <p>Takakuni Yamane (Doshisha University) “Contemporary Significance of the Debate on the Rationales for Justifying the IP Protection and its Limitations”</p> <p>Branislav Hazucha (Hokkaido University) “Copyright, Social Norms and Multi-agential Governance”</p> <p>Ken Shao (Murdoch University) “National Innovation System (NIS) in China: Challenges and a Holistic Perspective”</p> <p>Tugba Gules (D3, Nagoya University) “Intellectual Property Protection for the Plants of the Future: New Plant Variety Protection Under UPOV”</p> <p>Apinya Sarntikasem (D2, Kyushu University) “Seeking the Optimal Degree of Fashion Design Protection Through Social Network Analysis”</p> <p>Hao-Yun Chen (D2, Nagoya University) “The Anticompetitive Effects of the Enforcement of Invalid Patents”</p> <p>Bruce R. Lyons (University of East Anglia) “Institutional Design for Merger Control: Bringing Together Law and Economics”</p> <p>Ioannis Lianos (University College London) “Econometric Evidence in Competition Law: A European Story”</p> <p>Daniel Sokol (University of Florida) “The Law and Economics of US Merger Control in its Institutional Context”</p> <p>Akihiko Nakagawa (Hokkaido University) “Beyond Consumer Welfare: Science and Values in Competition Policy”</p> <p>大久保規子（大阪大学） 「オーフス3原則の国際的展開」</p> <p>兎矢野マリ（北海道大学） 「国際環境法における手続的義務の意義」</p> <p>堀口健夫（北海道大学） コメント</p> <p>亘理格（北海道大学） コメント</p>
2013/1/26	北海道ダイアログ「東アジア市民社会の対話—可能性と制限」